

横断的図書館利活用の推進

～個々対応を基本として～

目 次

- 1 はじめに
- 2 研究のねらい・目的
- 3 取り組みの内容
 - (1) 図書館年間利用計画の活用（多教科との連携）
 - (2) 特別活動への資料提供
 - (3) 全学年向けオリエンテーション
 - (4) 国語科：読書単元
 - (5) 生徒に寄り添ったサポート
 - (6) 読み聞かせボランティアとの連携
- 4 取り組みの成果
 - (1) 教職員の利活用の増加
 - (2) 生徒の読書意欲の向上
- 5 今後の課題

横断的図書館利活用の推進

～個々対応を基本として～

諏訪市立諏訪中学校
学校司書 宮坂 千鶴

1 はじめに

本校は諏訪湖畔から市街地東部に位置し遠く富士山と北アルプスを望む自然景観に恵まれた学区にある。学校



図書館部分のモダンな外観

教育目標「明るく元気でたのもししい人間性豊かな生徒の育成」を掲げる創立68周年の伝統息づく校風である。図書館は校門正面の3階にあり十分な床面積と開放感を持った学習環境にある。本学校図書館は令和2年度にコロナ感染症拡大防止対策としてカウンターの配置換えを行った。従来入口から奥まった隅にあったカウンターは来館者からは死角であった。入口正面に移動したことで複数の改善を得た。学校司書の在席が一目瞭然となり利用者を挨拶と同時に迎えられ、窓越しの明るさを確保し、カウンター内を広くとったことで図書委員の行動にゆとりが生まれた。カウンター前では利用者のソーシャルディスタンスが確保され、ビニールカーテンを設置して対面貸出を始めた。この環境改善は教職員・生徒に大変好評であった。

また諏訪市では平成17年度より子ども読書活動推進対策の一つとして図書の運送「ぐるぐる便」が導入されている。これは公共図書館と市内の学校図書館間を週1回運行する物流システムで、相互貸借を円滑に行うことができる。学校司書は本校の学習に必要な本を共有図書館ネットワークから予約し定期的に資料提供することができる。加えて教職員の要望には市・郡内はもとより、長野県内、場合によっては県外から本を取り寄せることができる大変ありがたい環境にある。

2 研究のねらい・目的

このような資料提供の好環境を踏まえ、学校司書として図書館運営の活性化を図るため以下の2点の目的を掲げた。1点は学習指導案に沿った図書館年間利用計画の推進である。教科担任の協力を仰ぎながら教科書改訂に準じた図書館活用が必須である。2点目は生徒への個々対応である。図書館で行う朝読書を含めた

開館時間はフロアワークに重点を置き、学校司書として広い窓口を意識し読書支援を行う。この2点からより良い学校図書館活用を推進したい。

3 取り組みの内容

(1) 図書館年間利用計画の活用(多教科との連携)

まずは全教職員向けの利用案内を年度初日の昼食会の時間に図書館で行っている。新任職員にも本学校図書館の現況を把握していただく絶好の機会となる。

以下の資料を配布し説明を行っている。

- ・教職員版図書館利用案内
- ・学校図書館概要
- ・前年度図書館年間利用計画表
- ・前年度教科への資料提供リスト



図書館内で利用案内

図書館年間利用計画表は本校の各教科の年間指導計画に沿い、学校行事や特別活動を盛り込み作成した。作成の工程は、まず学校司書が資料提供した単元の実践記録から始め、各教科主任に内容を確認しながら司書教諭と相談の上3年をかけた。この年間利用計画表を基本に学校司書は各教科担任の進捗具合を把握し、臨機応変に資料の提供を行っている。また今年度は教科書の改訂に伴い、随時修正を加えながら全職員の共有掲示板に掲げている。従って年間を通して更新・改善されたものが次年度へ継続されるサイクルとなる。

2021年 図書館年間利用計画表

学年	教科	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1学年	国語	のぼるはつらつ	チノコはスズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ
2学年	国語	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ	スズメのこころ

図書館年間利用計画表

学校司書にとって最も重要になるのは教科担任との事前打ち合わせである。教員が構想する授業内容、資料の必要冊数、複本の有無、個人調査かグループ調査か、学習のまとめ方を確認する。まとめの形式はレポート、新聞型、スピーチ、パワーポイントなど様々である。その構想に沿った確かな資料を充分量収集し提供するためには相互貸借業務が欠かせない。

授業内では学校司書が資料の扱い方、特徴などを説明し、資料に付箋をつける準備や必要に応じてコピー対応を行い無駄のない資料提供を心掛けている。授業の空き時間に教員が打ち合わせに来館したり、職員室でこまめに相談するのが日課の1つである。このように横断的教科の連携は年々広がりつつある。本年度の主な資料提供の単元は以下である。(学年)

- ① 国語：論語(1)・野菜の情報(1)・職業ガイド(2)・俳句(2)・短歌(3)・和歌(3)・故事成語(1) 徒然草(2)・世界への扉ノンフィクション(3)
- ② 音楽：オペラと日本伝統音楽(3)
- ③ 家庭科：幼児向け絵本と小物作り(2)・防災クッキング(2)
- ④ 美術：色彩(2)・工業デザイン(3)
- ⑤ 理科：天体(3)・環境問題(3)
- ⑥ 社会：明治の文化人(3)・国連組織の働き(3) 世界の宗教(1)・地理47都道府県(2)

地理単元47都道府県では1人1県の調べ学習を行った。基本地理データは年鑑・図会などの参考図書を用い、教科担任からのキーワード(郷土人物・気候・特産物・日本遺産・郷土料理・方言など)より関連資料を複本で準備した。インターネットも併用し学習を進め、まとめは個人で作成したパワーポイントの発表となった。残念ながら本校図書館ではタブレットの利用環境が整っていないため、次時からは資料を教室へ貸し出す方法をとった。

各単元に提供した資料については利用価値の高いものを優先的に購入し、次年度の授業に必ず活かすようにしている。年々学習資料の充実ができていく。選書や除籍に迷う際は積極的に教科担任に相談し的確な判断を仰いでいる。学校司書が授業支援の中で留意する点は、サポートが必要と思われる生徒にさりげなく寄り添うことである。個々の発達段階に応じ資料も段階的に示す必要がある。すると次時からは自主的に課題に取り組める姿が多くなる。生徒の充実感に満ちた表情を見守るのは嬉しいことであり、生徒との距離も一

歩縮まるきっかけとなる。

(2) 特別活動への資料提供(学年)

- ① 食育：栄養士と連携し、毎月1回諏訪市読書推進活動「みんなで本を読む日」に合わせ、本とメニューをコラボさせたお話しランチを行っている。
- ② 総合：諏訪めぐり～諏訪市・下諏訪町・岡谷市(1)・霧ヶ峰の植物(2)・郷土の人物30選(2)・諏訪学講座(3)

郷土学習は相互貸借本の方も借り、一般向けの古い貴重資料を学習に活用する大切な機会である。また学年や学習時期が重なるため、最新のパンフレット類のストックを増やしておくことも必要である。公共機関を用いて体験する校外学習は、複数の資料とインターネット情報の併用が欠かせない。

1年 総合：諏訪学 諏訪めぐり 岡谷市

2019, 2020, 2021

NDC		書名	著者・編者	出版社	出版年	所蔵
共通図書	069	長野県ミュージアムガイド	長野県博物館協議会	長野県博物館協議会	2017	○
	069	信州の博物館	信州博物館	信州博物館	2017	○
	289	長野県歴史人物大事典	神原美子	信州出版	1993	○
	294	知って得する歴史講座 信州ガイドブック	諏訪県立博物館	諏訪県立博物館	平成17	○
	702	信州美術鑑賞辞典	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	1998	○
	706	藤村・夏村の美術展	信州出版	信州出版	1993	○
	1	180 郷土のめぐり 歴史変遷 下巻	中央教育	中央教育	昭和41	○
	2	180 郷土のめぐり 歴史変遷 上巻	中央教育	中央教育	昭和41	○
	3	185 郷土のめぐり 歴史変遷	エーエスエス	エーエスエス	平成17	○
	4	202 郷土のめぐり 歴史変遷	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	平成17	○
5	202 日本史 古代史 歴史	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	平成17	○	
6	210 郷土のめぐり 歴史変遷 郷土のめぐり 歴史変遷	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	○	
7	210 郷土のめぐり 歴史変遷 郷土のめぐり 歴史変遷	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	○	
8	210 郷土のめぐり 歴史変遷 郷土のめぐり 歴史変遷	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	昭和47	○	

1 学年：諏訪めぐり資料リスト

(NDC・書名・著者・出版社・出版年・所蔵館・遺跡名)

2年 諏訪学 諏訪の歴史人物30選

No.	分野	人物名	生誕	NDC	書名	著者・編者		出版社	出版年	所蔵
						著者	編者			
1 国語	小説・伝記	1913	241	241	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			242	242	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			243	243	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			244	244	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			245	245	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			246	246	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			247	247	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			248	248	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			249	249	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
			250	250	すくも 歴史小説	神原美子	信州出版	信州出版	昭和47	信濃毎日
2 地理	郷土人物	1916	251	251	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			252	252	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			253	253	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			254	254	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			255	255	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			256	256	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			257	257	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			258	258	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			259	259	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日
			260	260	郷土人物 30選	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞社	2018	信濃毎日

2 学年：郷土人物調べ資料リスト (分野・人物名・生誕年・NDC・書名・著者・出版社・出版年・所蔵館・訪問地)

(3) 全学年向け オリエンテーション

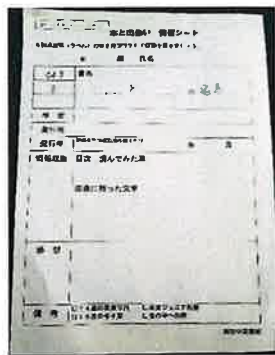
年度始めの国語の授業を使いクラスごと図書館で利用案内と貸出を行っている。事前にオリエンテーションの内容を国語科教員と打ち合わせ、TTで進める学年に応じたワーク時間としている。

- 1 学年：NDC(日本十進分類法)を意識したお題の本探しゲームに取り組んだ。
- 2 学年：友達に紹介したい本を1冊選び出典を含めたカードに記入し後日おすすめ本として館内に掲示した。
- 3 学年：中学生に出会ってほしい本を学校司書が予め選定し、書名のヒントと請求記号を記入したプリント

を各自に配布した。生徒はヒントを基に書架から本を探し出し、書名・内容・興味をもった文章・感想を記入し他分野の読書への導きとした。活用したシリーズは以下である。

「14歳の世渡り術」

(河出書房新社)・「15歳の寺子屋」(講談社)・「岩波ジュニア新書」(岩波書店)・「世の中への扉」(講談社)



3学年「本との出会い情報シート」

(4) 国語科：読書単元

言語活動を育む中心はやはり国語科である。図書館教育と国語科との連携は年間を通し二人三脚で行っている。特に読書単元では生徒個人が選んだ本にじっくり向き合うことで理解が深まり、更に他者へ向けて発信することが豊かな読書活動となっている。1学年はビブリオトーク、2学年は本のプレゼンテーション(読書ポスター作成とスピーチ)、3学年はグループでブックトークに取り組んだ。ブックトーク構成の様子と発表



ブックトークのテーマは予め教員と相談しクラスごと6つ(猫・ピアノ・つくる・時間・生きる・災害・旅行・祭り・つなぐ等)に絞った。生徒の希望に沿ったグループを形成し1人1冊ずつ選んだ本と本のつながりの言葉、声のトーン、興味を引くスピーチの仕方など熱心に話し合いながら一つのシナリオを作り上げた。どのグループも聞きごたえのあるブックトークとなり、聞く姿勢も自然と向上した。発表後全学年が見られるようリストを作成した。生徒の成果物は本と一緒にコーナーに展示し、他学年にも貸し出され読書案内として役立っている。また所蔵しない本は司書教諭と精選購入し、生徒の読書意欲促進につなげている。

(5) 生徒に寄り添ったサポート

読書には情報や知識を得るための本と、文章から物語を味わうための本が混在する。まれに「読む本がない」と呟く生徒は読みたいと思える本に出会っていないだけであり、どの生徒にも興味の持てる本は必ずあると信じている。その出会いづくりにそっと手を貸すためにフロアワークが生きてくる。休み時間の利用

は本好きな生徒、読書は苦手としながらも息抜きに来る生徒、わずかな時間を惜しみ学習に向かう生徒と様々である。また入館したくても入館できない生徒もいることを意識の中に入れ、日常の何気ない会話からコミュニケーションを心掛けている。



カルタでくつろぐ休み時間

① 図書館での朝読書

本校では週4日の朝読書をクラスごと輪番で図書館で行っている。図書委員はカウンター業務を行い学校司書は読書支援に回る。図書委員の反省を活かしチェック表を作成し活動を具現化した。この工夫から図書委員の呼びかけがクラス全体のスムーズな流れに影響することが明確となった。本選びに時間を有する生徒もフロアにいる学校司書に気軽に声をかけてくれる。

年度 朝読書の取り組み						随訪中図書委員	
月日	クラス	前日呼びかけ	図書委員入館	入館完了	読書タイム	私格なし	延滞者
例	1-1	○ ×	8:00	8:09	10	○ ×	1

図書委員の朝読書チェック表

朝読書を図書館で行うことによって新着本やおすすりめ本コーナーに目を向ける機会となり、全体の延滞本も減らすことができる。本校では朝読書の時間に読む本は学校図書館の本を基本としているが、分類の制限はしないため多くの棚の本が動いている。

② 個人の読書記録

諏訪市で制定している毎月第3日曜日の「みんなで本を読む日」に合わせ、前々日の金曜日は新着本の入替と貸出数を通常の3冊から5冊に増やし、生徒各自で読書記録カードの取り組みを行っている。提出された読書記録カードは国語科教員と学校司書が目を通し、コメントを添えるなど、一方通行にならないようコミュニケーションのツールとしている。

(6) 読み聞かせボランティアとの連携

立ち上げから15年余り、経験豊富な会員の方にご尽力をいただいております。毎月の読み聞かせの他に年1回の朗読公演を設けている。会員方々の熱意と協力により既存1作品に加え2作品を制作し、3年間で全作品を鑑賞できるようにした。中学生時代に是非出会ってほしい物語を厳選し綿密な練習を重ね上演を行っている。作品は宮沢賢治作「なめとこ山の熊」、ルイス・セプレタ作「カモメに飛ぶことを教えた猫」、サン・

テグジュペリ作「星の王子さま」である。いずれも木のオカリナ・日本箏・ピアノの音楽を添えた、味わい深い朗読公演である。心のこもった肉声の朗読と演奏に対する生徒の感想は豊かで、コロナ感染症拡大防止対策を取りながら鑑賞できる機会を大変ありがたく思う。また3学年の総合的な学習の時間で、地域へのボランティア活動の1つとして、福祉講座の生徒が小学生への読み聞かせ活動を行った。ボランティア会員の方には読み聞かせの基本（選書・時間・立ち方・声の出し方・めくり方・速さなど）をサポートしていただき、読み聞かせを聞く側の立場から、相手意識を持ち、行う側の立場を学ぶ貴重な経験となった。

4 取り組みの成果

(1) 教職員の利活用の増加

図書館年間利用計画表作成と、年度始めに図書館で全職員向けオリエンテーションを行うことで教職員の図書利用が活発に推移して来た。令和2年度はコロナ禍で休校日があったが、授業への資料提供が減ることはなかった。横断的に教職員と連携を取ることで授業への資料提供が確立している。

	H28	H29	H30	H31	R2
職員貸出冊数	483	594	1112	1045	1225
相互貸借 借受冊数	497	661	974	1045	1123

(2) 生徒の読書意欲の向上

図書館での授業時間はTTで支援を行う中で気軽に質問を受けたり、「図書館での授業は楽しい」という声が月を追って増えていった。同じ單元でもクラスの雰囲気異なるが、個人活動では比較的控えめな生徒に寄り添って支援することを心掛けた。生徒個々とのコミュニケーションは授業・朝読書・休み時間のフロアワークの積み重ねが種となることを実感している。

① 令和3年度全国学力学習状況調査結果より

生徒質問紙「総合的な学習の時間では自分の課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」に対し、本校の回答「当てはまる」は長野県・全国を10%程上回っている。諏訪学の継続的な学習の成果と言えよう。

② 国語読書単元を通した生徒の感想より(学年)

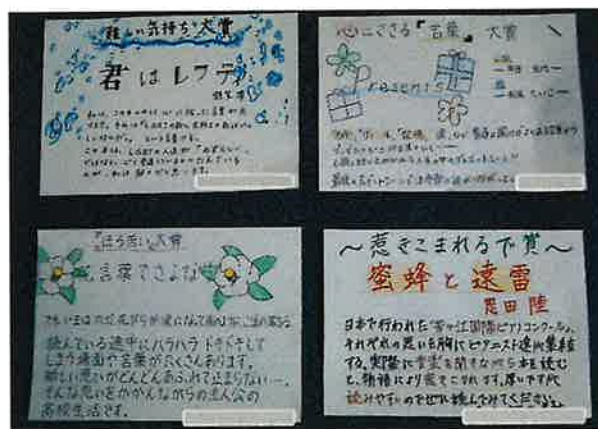
・自分が紹介した本をなるべく多くの人を読んでくれると嬉しい (1)・私が読んで思った感想とは違うことを話していて面白かった (1)・普段自分があまり読ま

ない種類の本をたくさん知ることができ視野が広がった (2)・自分の本にも詳しくなれた (2)・個性豊かなプレゼンテーションで次に読んでみたくなった (2)・本の続きが気になったりトークのつなぎ方も上手だった (3)・一つのテーマに対して関わりのある本があんなにあることに驚いた (3)・幾つもの質問も交え場が盛り上がり全体の取り組みがとても楽しかった (3)

③ 読書旬間企画 全校で取り組んだ本のポップ

図書委員会の発案で、本の魅力を「〇〇賞」のネーミングで伝えるポップを書き、文化祭にあわせ掲示した。ユニークな270枚の作品にあふれ、見ごたえのある取り組みとなった。

生徒作品例



・心揺さぶる大賞・努力の青春大賞・リアルな医療本大賞・家族愛に感動大賞・シンクロ大賞・モチベ上がる大賞・考え方が変わるで賞・本の世界に入りま賞・甘酸っぱい大賞・琴線に触れる大賞・奥が深すぎるで賞・切なくてきれいで賞・惹き込まれるで賞など。生徒1人ひとりが1冊の本にじっくり向き合うことで本の価値観も変わり、他者に向けた発信に繋がることを強く実感した。

5 今後の課題

「図書館はすごく落ち着くことができる場所。このような状態が続いてくれると嬉しい。」そんな生徒の声を嬉しく思う。華美になりすぎない装飾で、公平な学習・読書空間の提供を心掛けていきたい。小・中学校図書館は高校図書館・大学図書館・公共図書館へと生涯にわたる学びの場の線上にある。多様な情報活用スキルは今後益々求められる。豊富な資料と共にICTを取り込んだ情報環境が必須である。学校司書として教職員と協働する中で生まれる一言を見逃さず、改善のヒントを捉えながら、学校全体で育てていく学校図書館を目指す姿勢が大切である。常に教職員、生徒1人ひとりへの丁寧な対応を意識し学校図書館の有意義な活用を推進していきたい。